
時代はシチューである

黒道遊訪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時代はシチユーである

【Nコード】

N8927A

【作者名】

黒道遊訪

【あらすじ】

あれ、今日は何の日だったけな、ああ、こんな日か。

(前書き)

とりあえず処女作です。読んでくださる方いたら、多謝。微妙さ溢れる短編。

SFというほどSFでもないし、ホラーと言つほどホラーでもないのだ、とりあえずSFだ。

時代はシチューである。

君はこのことを知っているか？知っていないのなら知るべきだ。

さて、今日は何時に起きるんだっか。まどろみのなかにいつの間にか意識が戻っているのに気付いて、僕は目覚まし時計に手を伸ばした。

あれ、ない。手を動かして見ても、見当たらない。ああ、何かの拍子にベッドから落ちたのか。仕方ないな、目を開けてやるか。

ここはどこだ。まあいい。夢だろう。僕の前には一冊ノートがあった。僕の昔使ってたノートに似ている。夢だからだろうか。他の周囲は全く目に入らない。きっと夢だからだろう。

何の気なしに、僕はノートを取ってその表紙を見た。表紙にはこうかかれていた。

時代はシチューである。

鍋を用意しろ。

僕は山の頂上にいた。いやこれは崖と言うべきかもしれない。なんだかふわふわする。見晴らしはとてもよくて、雲や木々の自然がとてもきれいだ。僕は散歩したい気分になって、ものすごく良い気分でのんびりと歩いていった。崖は弧を描くようにして続いていて、最後には元の場所に戻る。大きな穴となっているようだ。しかし、崖の反対側は気にならない。きつと夢だからだろう。

水を張れ。具をいれろ。

僕は湖の上にいた。めまぐるしいことだ。でも、僕は一日に7回夢を見たことがある。何度も変わる夢があったとしても、全然不思議じゃないはずだ。だって夢なんだからね。

僕は何かの舟に乗ってるらしかった。ぶかぶかかたかた揺れている小船。水があるからなんだか涼しそうに見える。水面はほとんど波立っていない。穏やかだなあ、と思っていたら、赤や黄色や緑の大きなものが降ってきたんだ。当然、大揺れ。大変迷惑だよ。そういう変なことしかできないのかい、この夢は。水がはねて冷たいじゃないか。

あれあれ、周りが黄色い塊だらけ。なんと、飛び移れるじゃないか！早速僕は飛び移ったね。それが当然だろう？なあに、飛び移るのに危険はないさ。夢なんだから。何だってできる。黄色い島を渡っていくと、何か明かりが見えたよ。まあ、その時初めてあたりが結構暗かったって気付いたんだけど。あれれ、さっきは明るかったんだけどな。大きなものが降って来たときは。まあいいや、ちょっとあの辺まで行ってみよう！

スイッチを強に。

だんだん暑くなってきたな。水だらけなのに何でだろう。でも、さっきの明るいところに行くにつれて涼しくなっていく。もう少しだから頑張ろう！と、思った矢先、凄く明るくなった。いやあ、良いね、明るいつて。と、急に湖が白くなっていったんだ。いやあ、変な夢！

じとじとじとじと……。

また暗くなった。ああ、もうやめてよ。暑いんだってば！でも、このあたりは安心、光が見えてるからね。とても涼しいんだ。でも、夢ってこんなに暑いものだったけか。と、その時僕は急に流された。あれ・・・なにがなんだか・・・。

とと、何があったんだろ。しばらく気絶してたのかな。急に真っ暗になっちゃった。やけにあつたかいけど、今度は耐えられないほどじゃない。

あとは。

おお、なんだか高い声が聞こえるぞ。初めての声だ！なんて言ってるんだろ。

「水を先に入れたの？」

「ええ、そうしないと死んじゃうでしょう？生のものが食べたいと仰せでしたもの」

似たような声。でもなんて言ってるんだろつか。

「じゃあ、お出ししましょ。行ってくるわね」
なんて言ってるんだろつか

なんだか低い声が聞こえる。

「これが例のあの青い星の料理かね？」

それにさっきの高い声だ

「はい、あの星に最も豊富な素材を加えた特製の品です」

何て言ってるんだ？

「おお、うまそうだ」

暗闇が開けて、目の前にあったのは大きな口だった。

ノートが閉じた。

「シチューと言っのか。うん、これは良い味だ。こりこりと食感がいい。地球と言ったか。是非、侵略すべきだ！」

(後書き)

読んでくださり、ありがとうございます。まだ短編ちょちよいとしか書けないものですが、これから色々試して行こうと思っております。

なにあれ、読んでくれたことに感謝を！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8927a/>

時代はシチュウである

2010年11月16日10時10分発行